

平成 19 年度 ワーキンググループ報告

担当理事 畑澤 順

日本核医学会では、会員から提案された課題を行うワーキンググループに研究費を助成し、核医学の普及、活性化、啓蒙活動を行ってきました。本号では、平成 19 年度に行われた以下の 5 課題について研究成果の報告を掲載します。

課題：悪性リンパ腫の早期の治療効果と予後予測における

^{18}F -FDG PET の有用性の研究

代表：織内 昇（群馬大学病院）

課題：PET がん検診の疫学調査

代表：千田 道雄（先端医療センター）

課題：全身骨病変検索検査としての ^{18}F -fluoride ion PET の有用性の評価と、
骨シンチグラフィとの比較

代表：宇野 公一（西台クリニック）

課題：核医学情報の標準化：

核医学部門の情報管理戦略ガイドラインの提案へむけて

代表：奥 真也（埼玉医科大学総合医療センター・東京大学）

課題：SPECT 画像再構成・画像処理の標準化とその評価に関する研究

代表：飯田 秀博（国立循環器病センター研究所）

平成 8 年度にはじまったワーキンググループ研究は、その時々に必要な性の高いテーマが会員から提案され、グループ構成員の共同研究結果が最終報告として本誌に掲載されてきました。今後も会員の皆様から、必要な性の高い研究テーマをご提案いただき、活発な活動が行われることを期待しています。